其雅獸面影

竹戸六編

よの美し

一筆庵主人稿

一陽齋豊國畫

門人金恵

庚戌新刊

和漢文庫

年毎ふ新刻まる押史とそ江戸産物の第一なれ浅草海苔ハ拂底でも新版めの影ーく出れバ出るゆと賣るゲ都會當りものとく魁て其面影を寫さ成見とーお山の大將ふとうふおらむ品の魁のゲ當世聊時好ふ恊ひーとそ彼所もぐんぐ美も減ド勝手ゆるひまるれ齊く漫ふ仕入を惜むゲ故蒔ぬ種ハ生ぬも理り仕て呉とそ世ぬ中よ。真似をさるも人大慶今年ハ取りとり病ふ罹り懶るとあく他ふ後れ秋の季ゆう夜ゆゑをうけて稿を終ても画工も船込ゆつ賣物ふゆるとうと書價ゲ歎息むりゆるゆむ初手ゆう天窓茂割板ゆて配まバゆゲて板揃ひそ浴ひふ雙ひー画師板元ゆ廻ー早き発兌を祝ーて自叙ととゆ人

嘉永二己酉季秋稿成
同　三庚戌孟春発兌

一筆菴主人誌

加賀屋
つるぢ紙
考づ
ふくハちで
あいうえ
ゆのハ
するわ
足利義尚卿の
妾於三の方

美濃郡の
うぢ葉ふく袴
考づかた
乃
年
成も
はまん
そ
ゆハ
赤松柏之助
保行

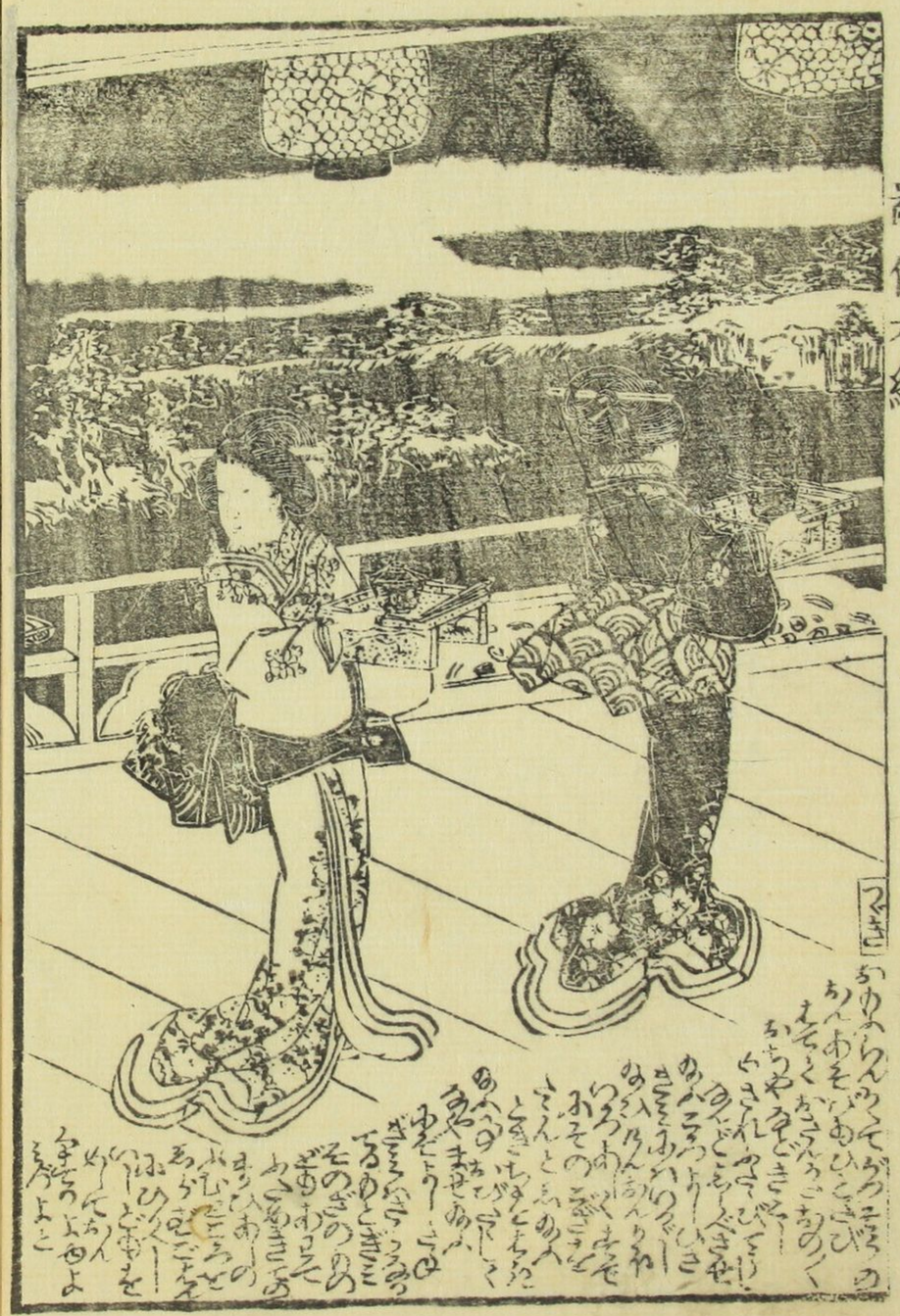
足利
耀基公
四拾歳の
賀宴ふ
依て
壽像を
刻まむ

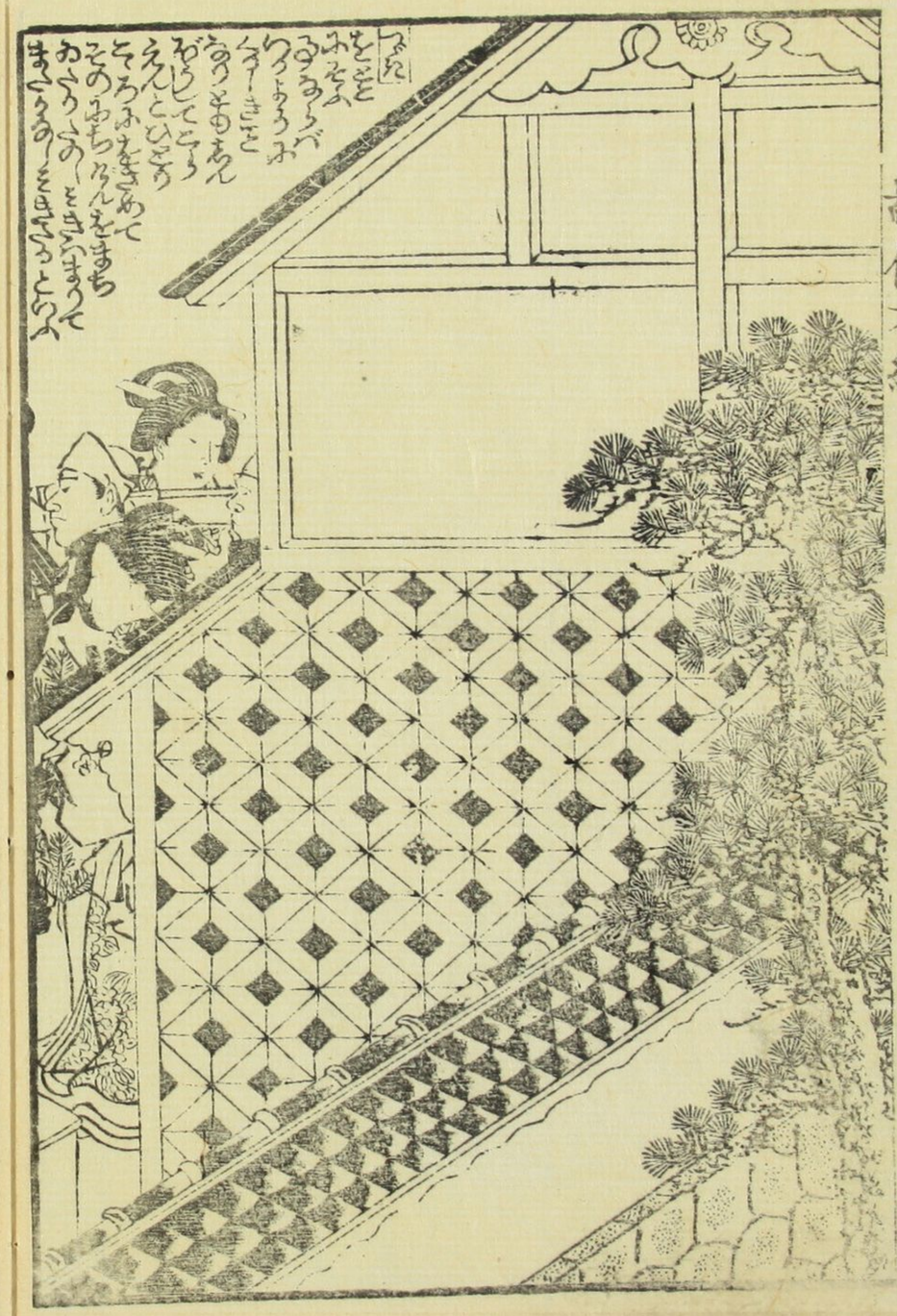
面打の名人
入目一満

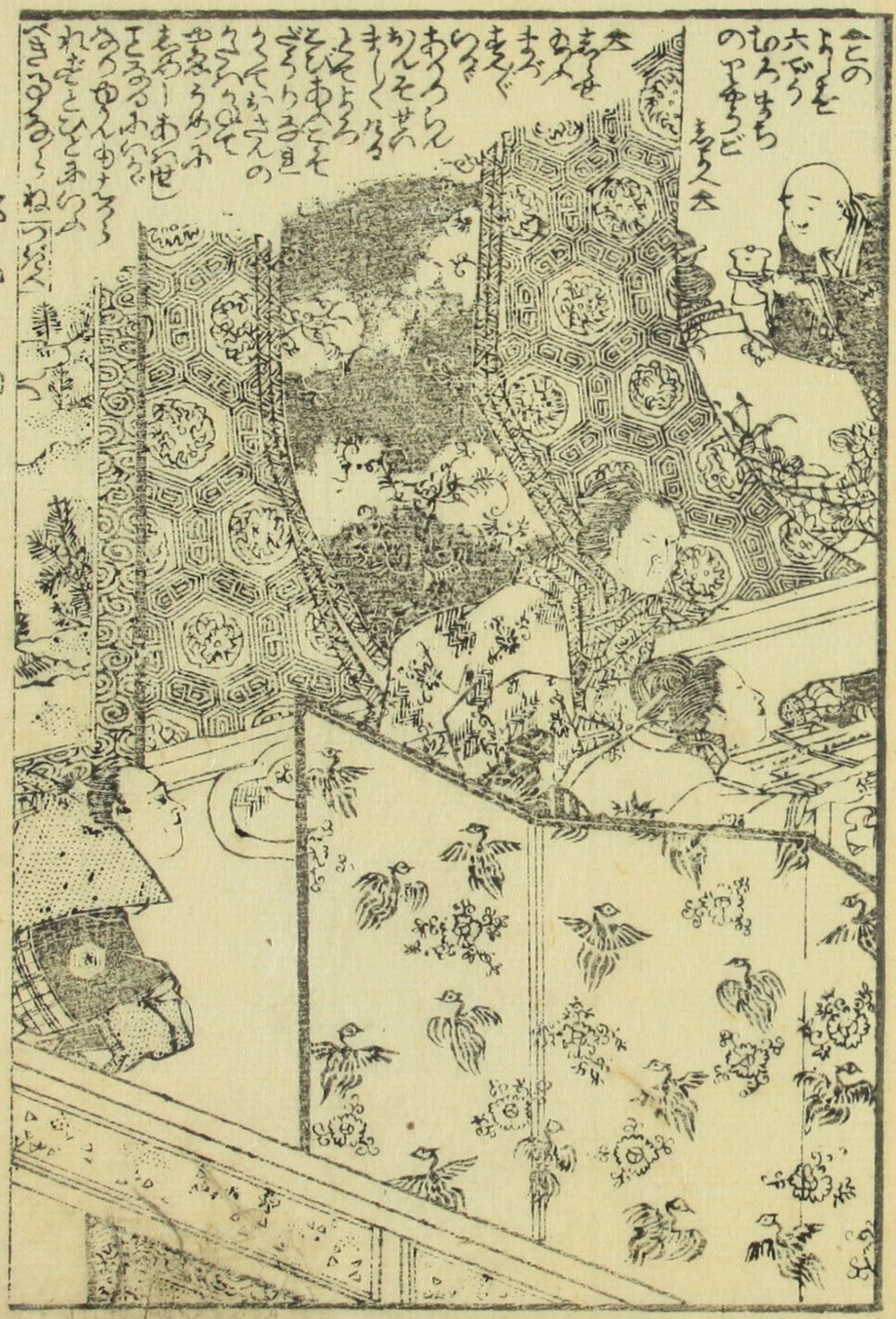
梅ゥ香成
けるそれとも
みるに
せるか

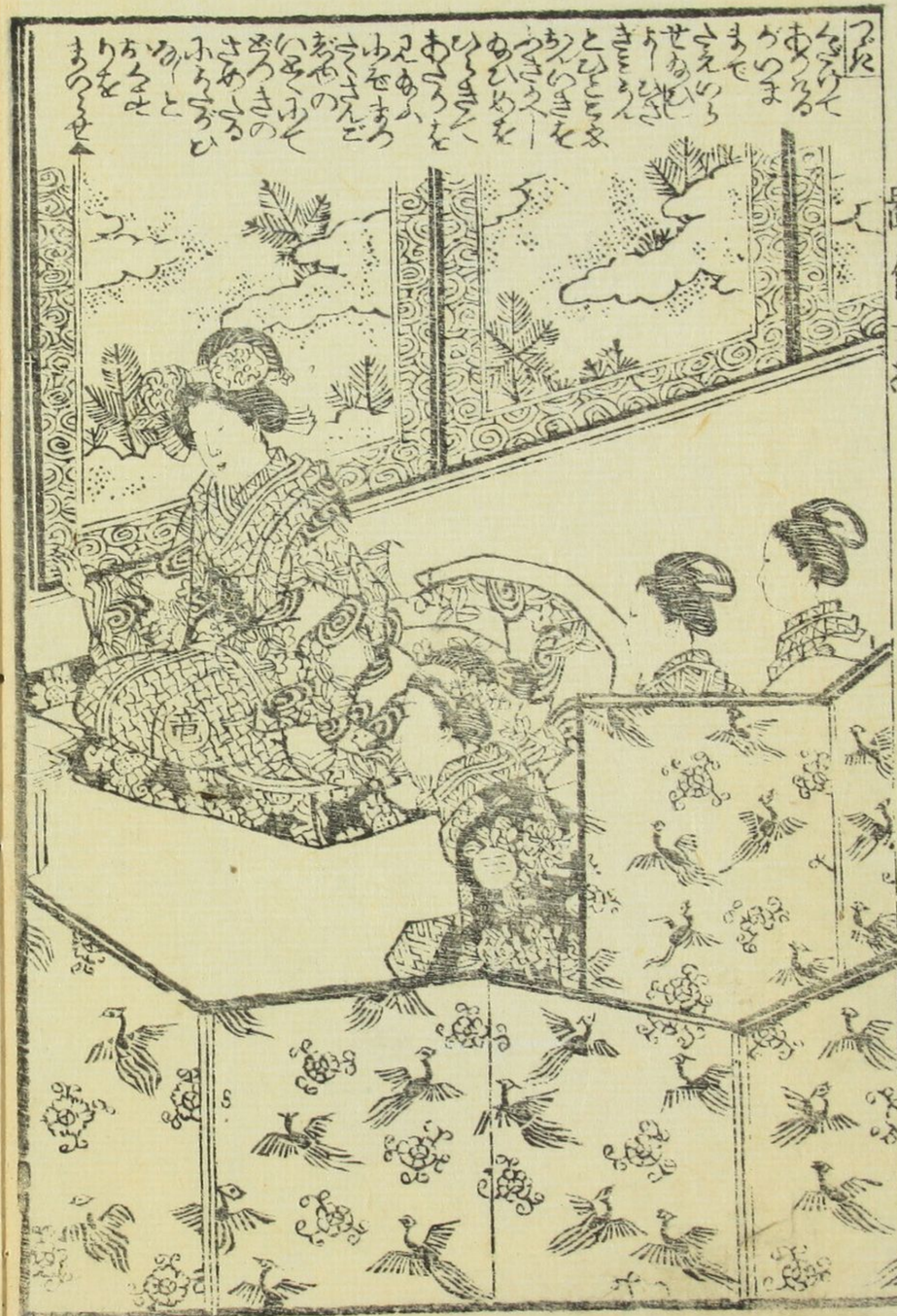
柳ゥ
枝ゥ
さそふ
そよ
そよ
ゆ

足利耀基卿

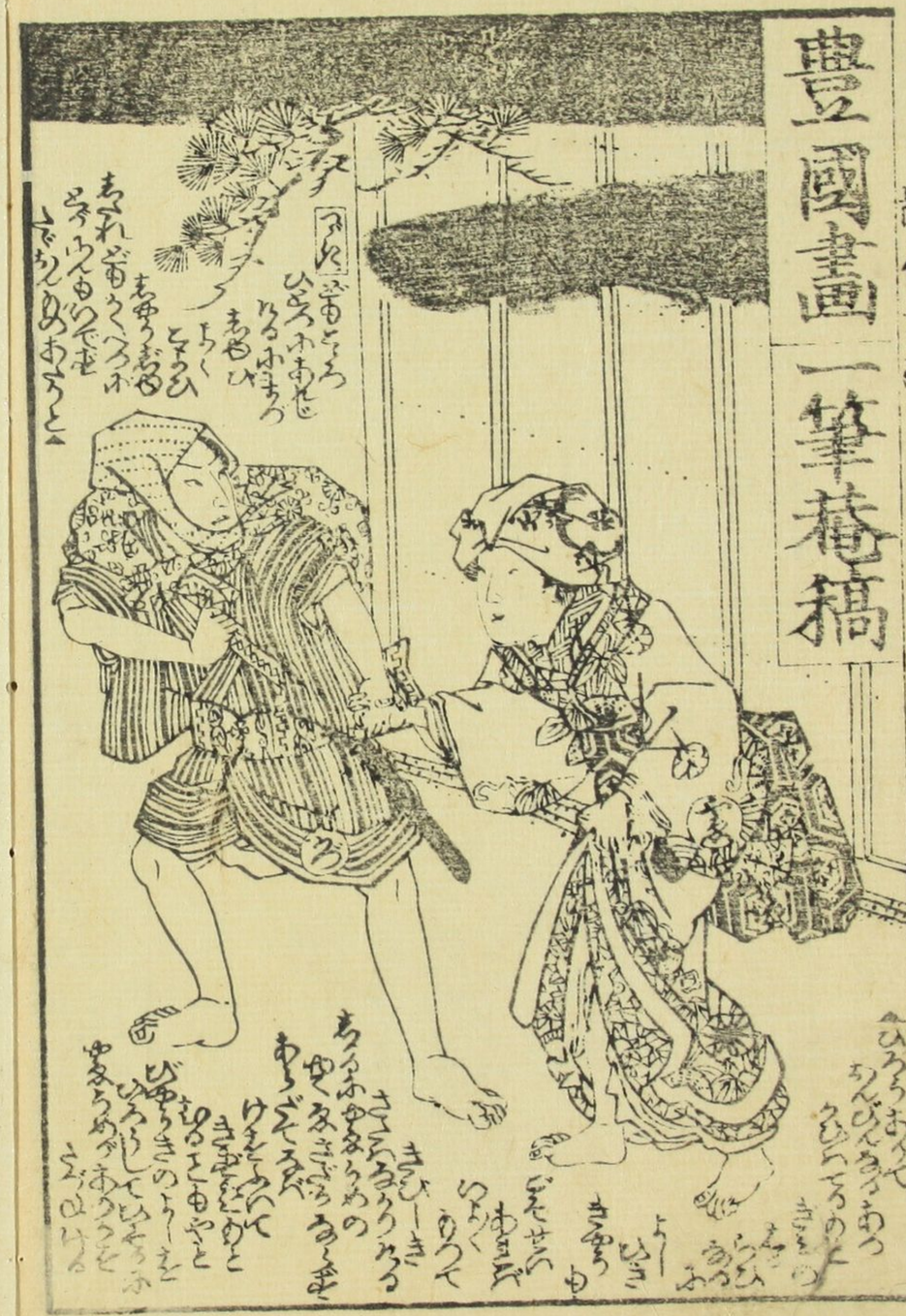








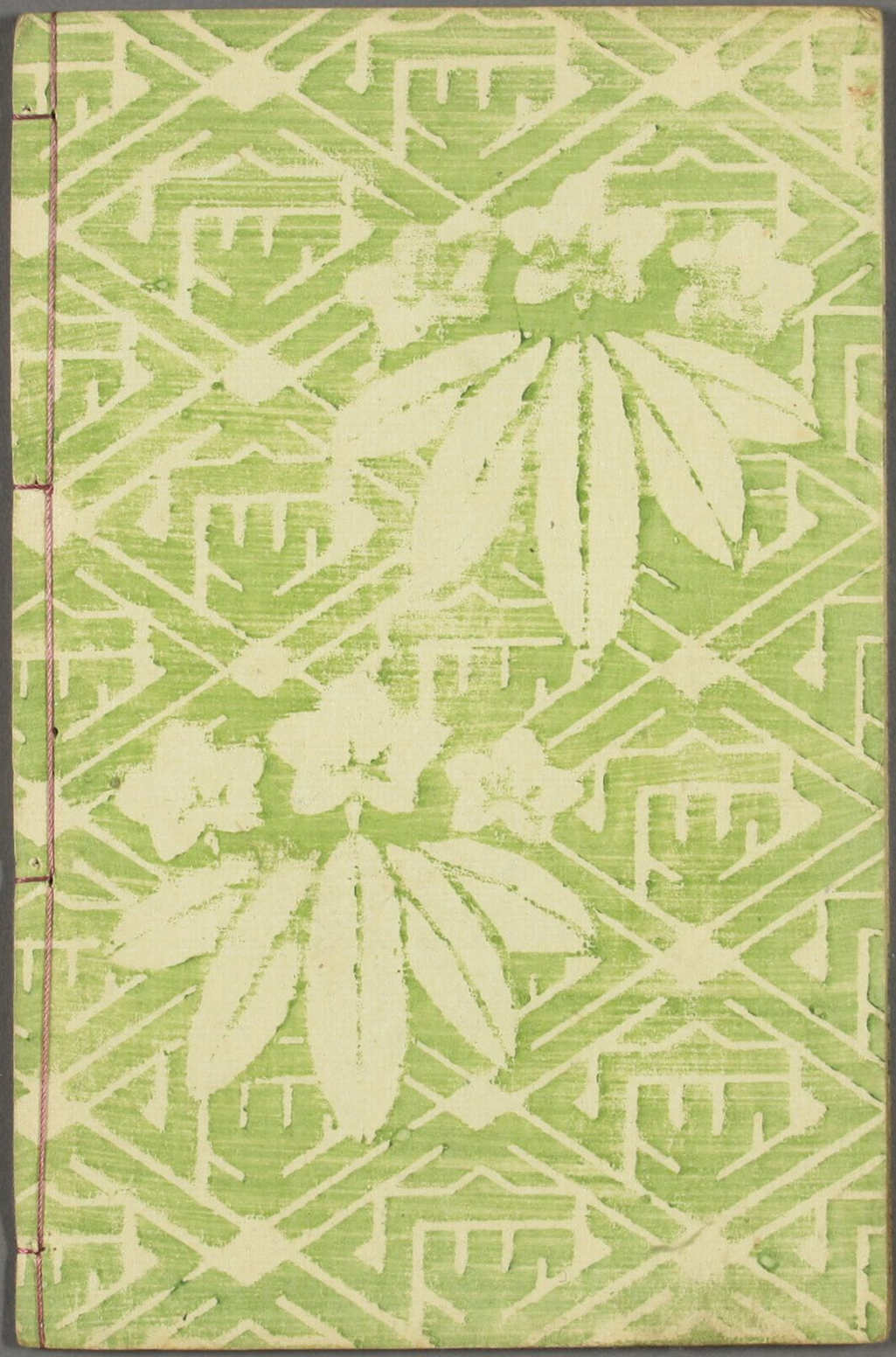
豐國畫一筆菴稿



名所花暦 滑稽富士詣

浅草中堂 仮名垣魯文戯作
浅草尾一 孟齋芳虎狂画

富士山開闢の御縁年ふる當山は許すべからざると聞き伝へ人の登山は許すべからざると聞き伝へ人の登山は許すべからざると聞き伝へ人の登



一筆庵稿

豊国画

真葉下

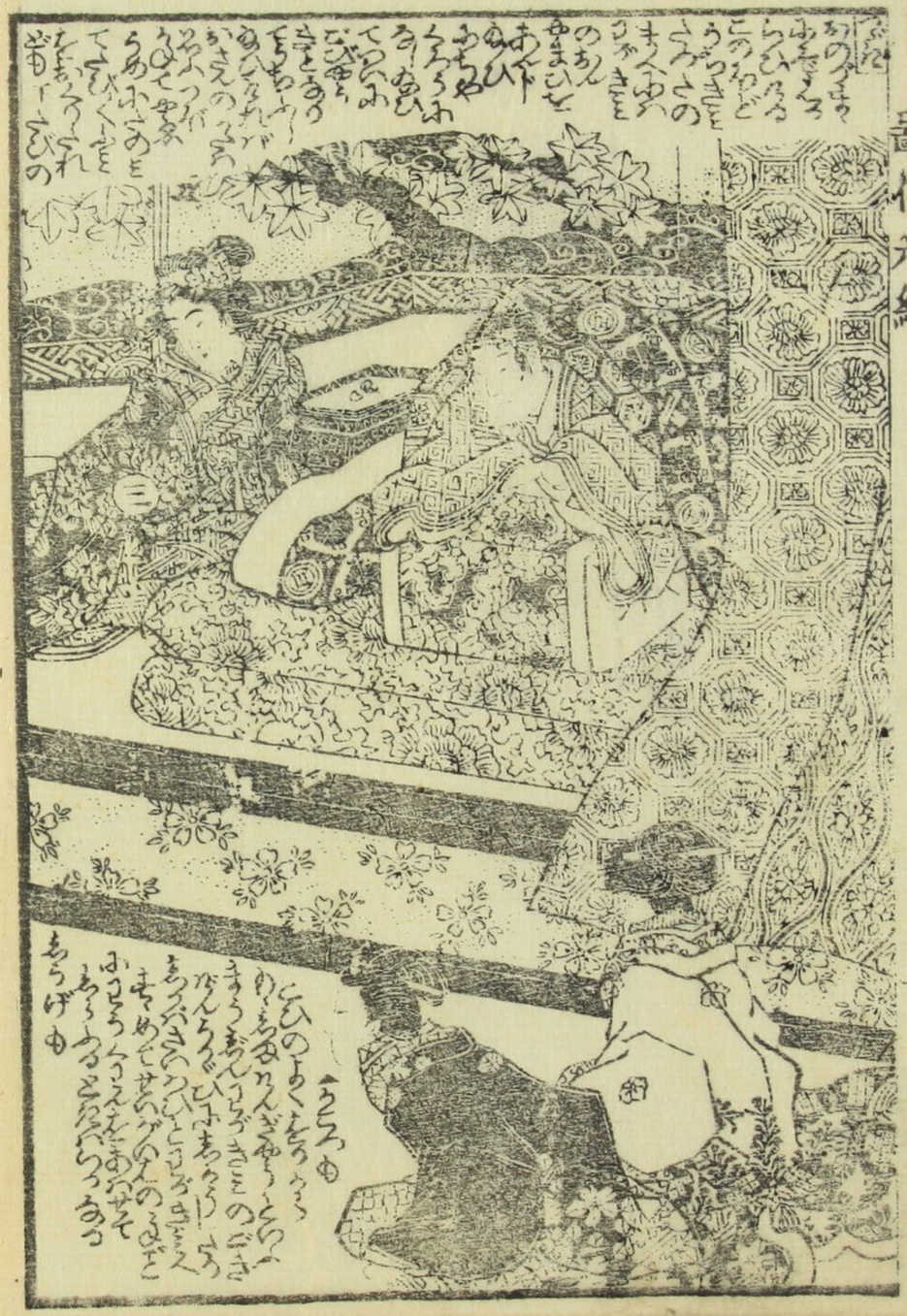
面影

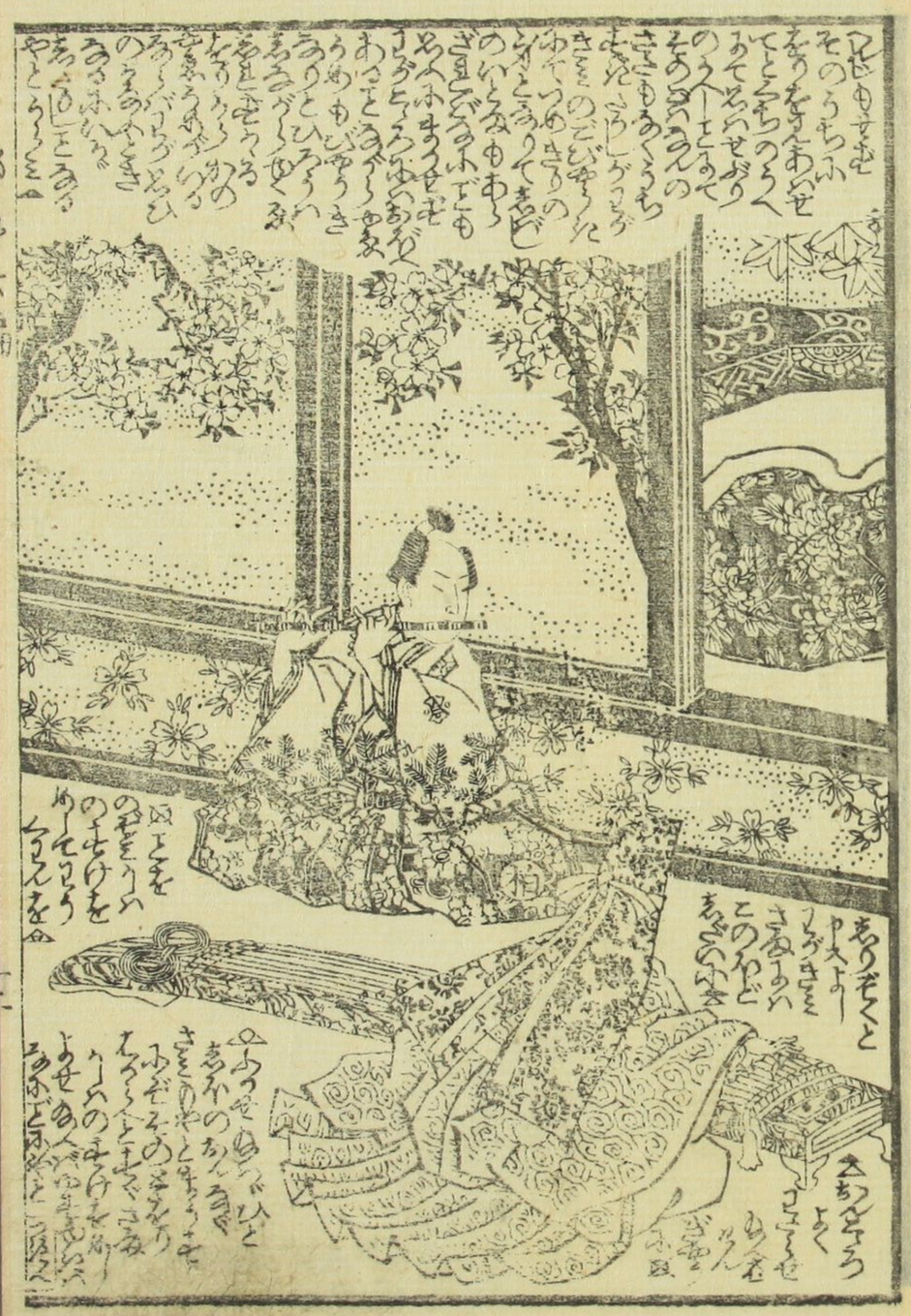
第六編

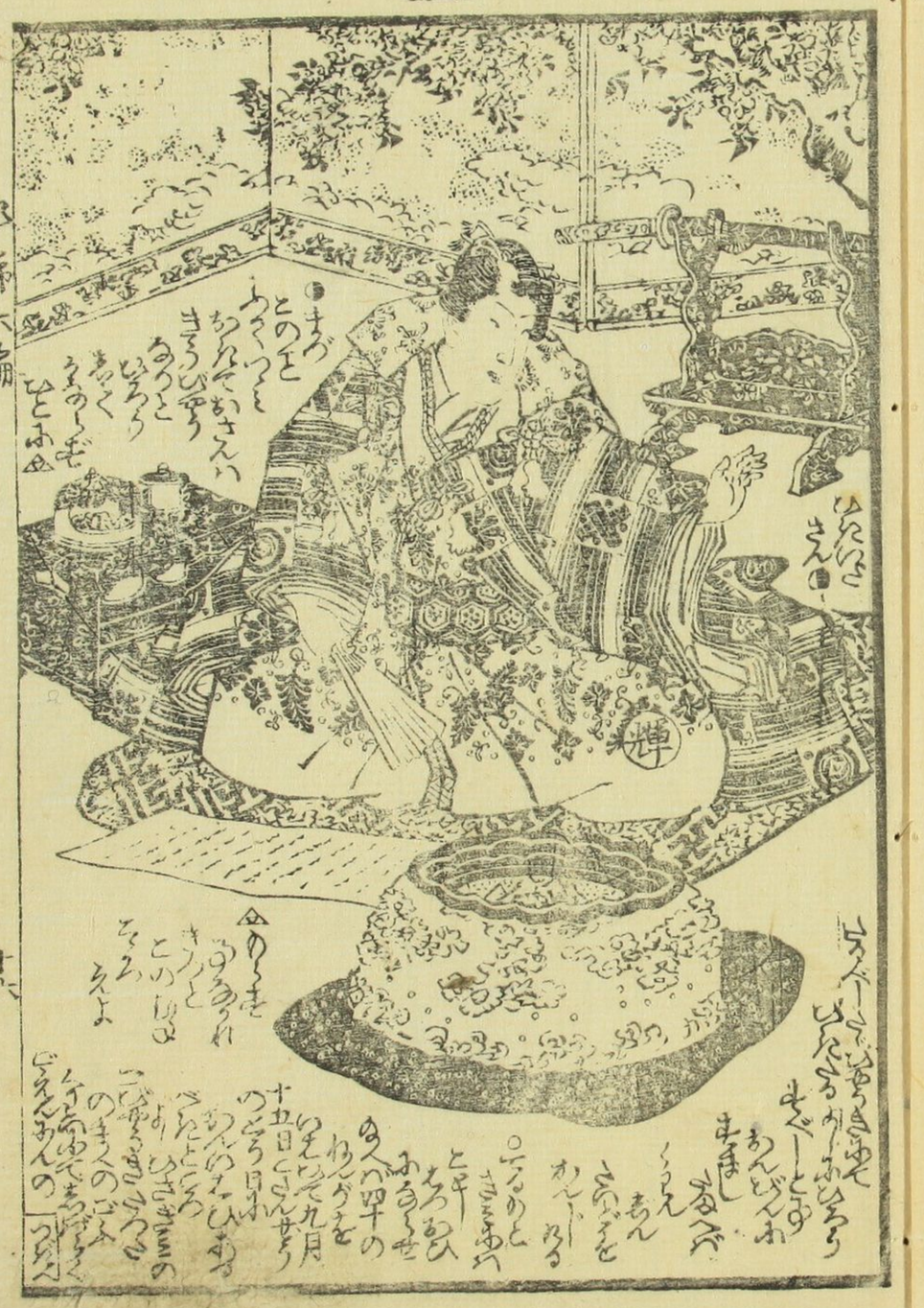
巻

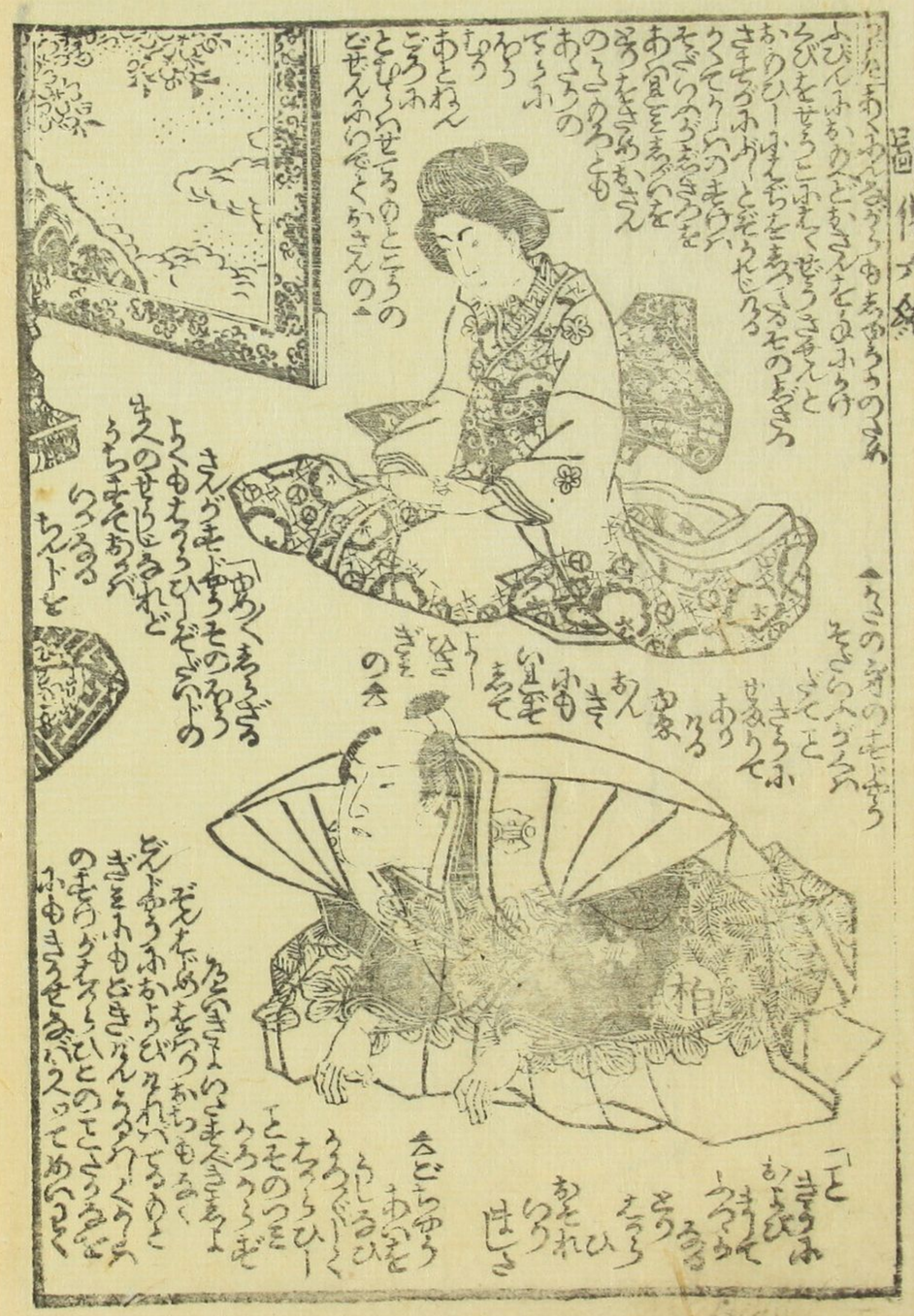
人金色

庚戌新刻









一筆菴稿

一陽齋豊國画

○七編 ひらづら
うりかーいろ
あらうらおにめとめさまと
どひやうたんのいどひとかく
たにわがひさえ
まつつい

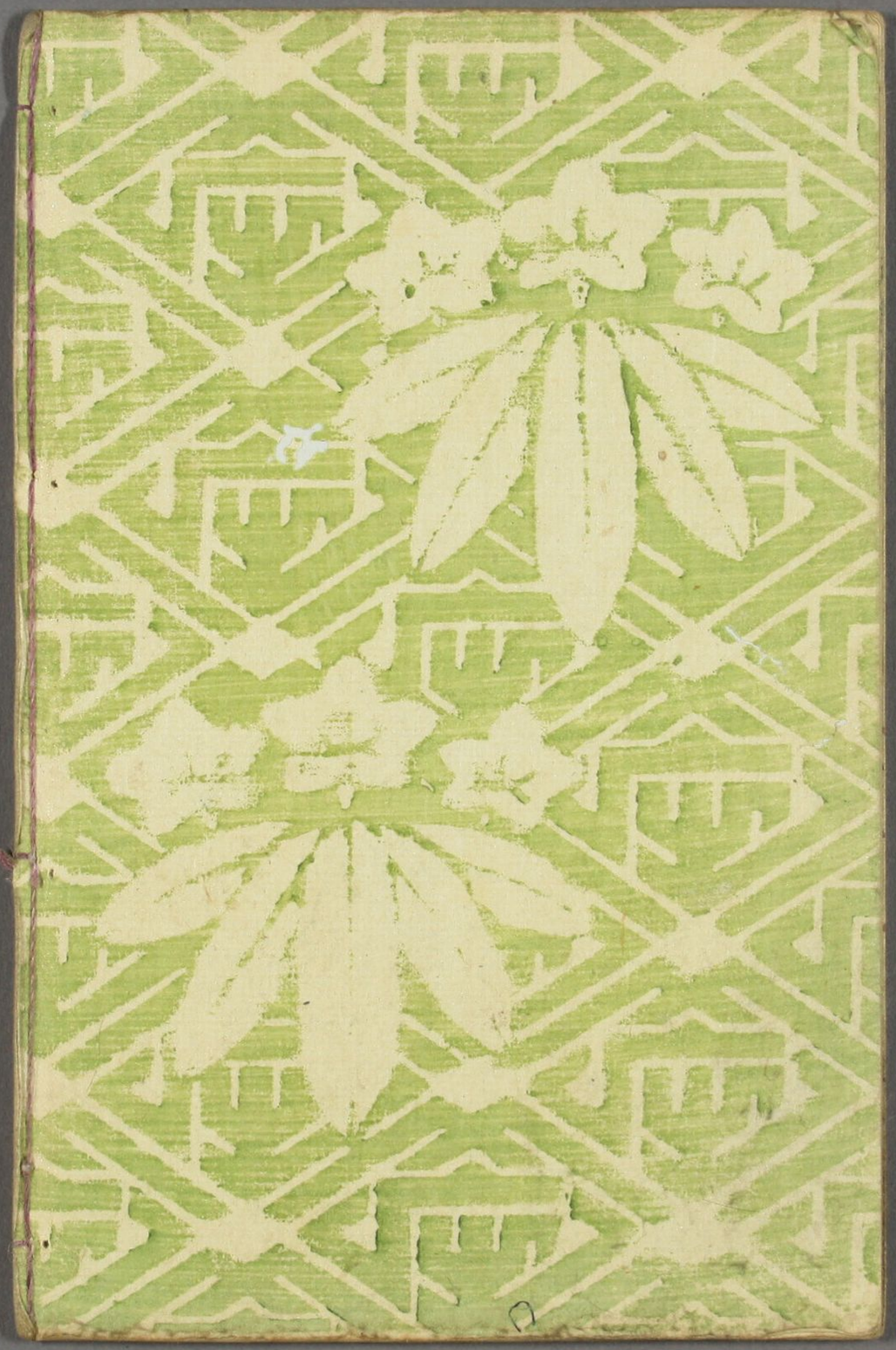
稲妻形 二十編 種彦作
怪鼠標 二十一編 二十二編 国貞画
子七編

其由縁鄙俤 五編 魯文作
七勇士尼子の礎 六編 芳虎画

両夜鐘四谷雑談 九編 魯文作
十編 芳虎画

比奈乃都大内譚 三編 種彦作
四編 芳虎画

地本問屋 江戸てりは町 壱ちやう目 ますや 庄七



柳縁

鄙延伝

六編

業優主人作

陽斎豊国画

嘉永三年 歳在
庚戌彩春 浪花

八人金魚